

会報 こぶし

北陸電波学校
北陸電波専門学校
北陸電波高等学校
金沢工業大学附属高等学校
金沢工業高等専門学校
国際高等専門学校
金沢工業大学

VOL.
63
2019.1



金沢工業大学 1 期生と
学園関係者の皆さん

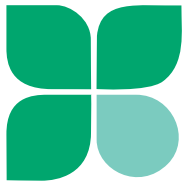
KIT ホームカミングデー開催 卒業生が母校に帰り交流

金沢工大学園 60 周年記念特集
同窓会の歩み / 大学同窓会

卒業 50 年祝賀会を
盛大に開催

大学と同窓会が共に発展

大学 1 期生のたゆまぬ努力に感謝

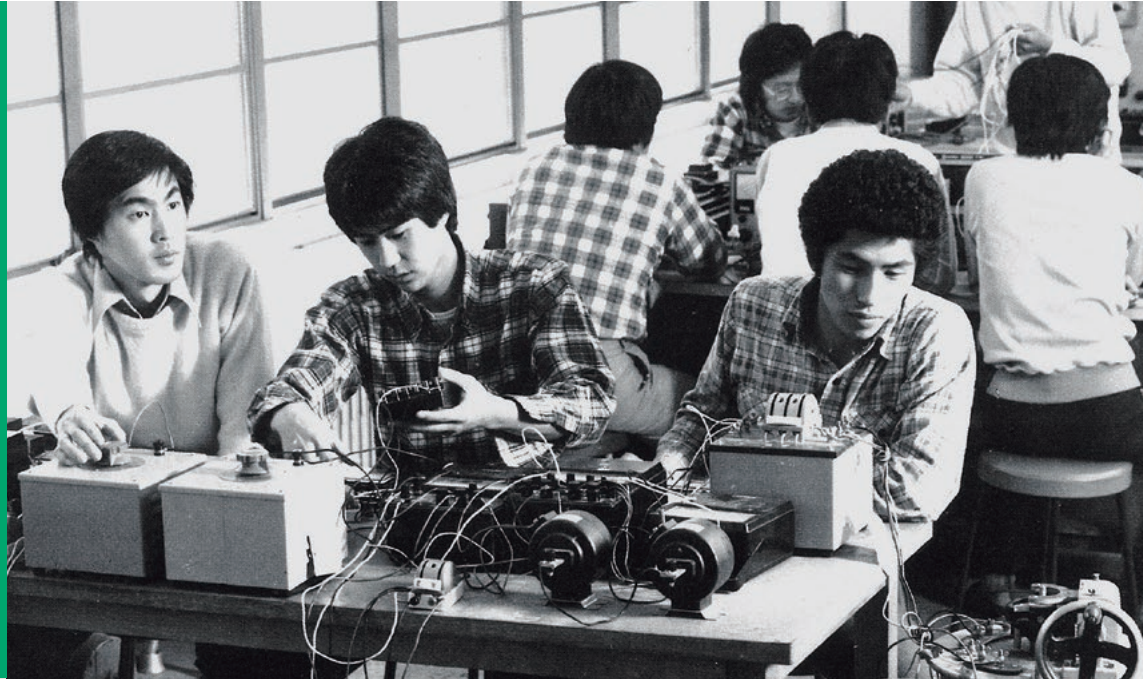


金沢工大学園 60周年記念特集

時代の先を見据えた教育と実践

大学 同窓会

新しい教育を次々と採り入れていくなど、ますます発展を遂げている金沢工大学園。会報こぶしでは、学園の軌跡を同窓会の歴史とともにたどります。第3弾は大学同窓会です。



▲電気機器について学ぶ電気工学科の学生[昭和56(1981)年]

イノベーションを生む人材を

「高邁な人間形成」「深遠な技術革新」「雄大な産学協同」。金沢工業大学の建学綱領は、現代に通じる教育の理念であり、先進的な教育研究に取り組む基礎となっています。現在、イノベーションを生み出す人材の育成に力を入れる同大学の成り立ちなどを紹介します。



教員の皆さん[昭和46(1971)年]

昭和40(1965)年に金沢工業大学は開学しました。機械工学科、電気工学科に続いて、翌年には経営工学科、その翌年には土木工学科が設置され、この地にしっかりと根を下ろし、高等教育機関として歩み始めることとなります。

当時、最先端だった大型電子計算機

を昭和43(1968)年に導入するなど、教育のみならず設備においても全国の大学をリードしていきます。その後、建築や環境、心理、情報、バイオなどの学科を加えることによって、現在、理工系総合大学として確固たる地位を築き上げています。

大学同窓会は、平成30(2018)年4月現在、64,713人の卒業生が所属する大きな組織となりました。今後は社会のグローバル化に対応したイノベーションを創出する卒業生が加入し、学園、大学との新しい協力関係が構築されることが期待されます。



▲「ABUロボコン」で世界一に[平成25(2013)年]

金沢工業大学の校歌

一、加越山脈 越えて吹く
緑かがやく 朝風に
こぶしの花は 咲きかおり
若き心に 夢を呼ぶ
扇が丘の学園は
祖国日本をにないゆく

二、白嶺おろしに きたえたる
鉄の腕よ この胸よ
真理と技の 蘊奥を
求めて常に 新しく
扇が丘の学園は
工業日本をきぎゆく

三、越の海辺を 船出して
七つの海を 越えてゆく
産学共に 協同の
輝く成果 我にあり
扇が丘の学園は
世界の幸をひらきゆく



青山 兵吉
(初代学長)



京藤 睦重
(第2代学長)



木羽 敏泰
(第3代学長)



佐藤 豪
(第4代学長)



石川 憲一
(第5代学長)



大澤 敏
(第6代学長)

大学同窓会歴代会長

初代会長 京藤 睦重

第2代会長 木羽 敏泰

第3代会長 谷 信雄

第4代会長 松田 孝一

第5代会長 川向 義朗

第6代会長 松田 真一

第7代会長 橘 守

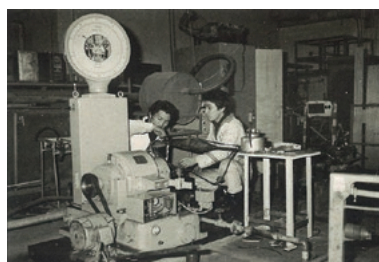
第8代会長 殿村 和也

金沢工業大学の歩み

- 昭和 40 (1965) 年 4月 ●金沢工業大学開学
工学部 (機械工学科、電気工学科) 設置
- 昭和 41 (1966) 年 4月 ●経営工学科設置
- 昭和 42 (1967) 年 4月 ●土木工学科設置
- 昭和 43 (1968) 年 11月 ●能登穴水湾自然学苑開苑
- 昭和 45 (1970) 年 4月 ●建築学科、電子工学科、情報処理工学科設置
- 昭和 52 (1977) 年 5月 ●天池自然学苑開苑
8月 ●大学同窓会が誕生
- 昭和 53 (1978) 年 4月 ●大学院工学研究科修士課程設置
- 昭和 55 (1980) 年 4月 ●大学院工学研究科博士課程設置
- 昭和 57 (1982) 年 6月 ●ライブラリーセンター開館
- 昭和 60 (1985) 年 6月 ●大学開学 20 周年記念講演会を開催
- 昭和 61 (1986) 年 4月 ●機械システム工学科設置
- 昭和 62 (1987) 年 4月 ●情報処理工学科を情報工学科に名称変更
- 平成 5 (1993) 年 7月 ●夢考房開設
- 平成 7 (1995) 年 4月 ●物質応用工学科、人間情報工学科、環境システム工学科設置
- 平成 10 (1998) 年 12月 ●池の平セミナーハウス完成
- 平成 12 (2000) 年 4月 ●先端材料工学科、居住環境学科設置
●物質応用工学科を物質システム工学科に、経営工学科を経営情報工学科に名称変更
- 平成 16 (2004) 年 4月 ●工学部 (ロボティクス学科 航空システム工学科 電気電子工学科 情報通信工学科) 設置
●環境・建築学部 (バイオ化学科 環境化学科 環境土木工学科 建築学科 建築都市デザイン学科) 設置
●情報フロンティア学部 (メディア情報学科 生命情報学科 心理情報学科 情報マネジメント学科) 設置
●東京虎ノ門キャンパス開設
- 平成 20 (2008) 年 4月 ●バイオ・化学部 (応用バイオ学科・応用化学科) 設置
●情報フロンティア学部を情報学部 to 名称変更
●情報マネジメント学科を情報経営学科 to 名称変更
●情報工学科を工学部から情報学部へ変更
- 平成 24 (2012) 年 4月 ●情報学部を情報フロンティア学部 to 名称変更
●情報工学科を情報学部から工学部 to 変更
●情報通信工学科、情報経営学科、建築都市デザイン学科を電子情報通信工学科、経営情報学科、建築デザイン学科 to 名称変更
9月 ●イノベーション&デザインスタジオ開設
- 平成 26 (2014) 年 3月 ●アントレプレナーズラボ開設
- 平成 27 (2015) 年 6月 ●新こぶし事務局完成
- 平成 29 (2017) 年 4月 ●新夢考房開設
7月 ●Challenge Lab 開設
- 平成 30 (2018) 年 6月 ●「CDIO」国際会議を日本初開催
8月 ●国際交流会館開館
10月 ●第1回ジャパンSDGs サミット開催



▲第1回卒業式 [昭和44(1969)年]



▲実験する機械工学科の学生 [昭和51(1976)年]



▲工大祭の仮装行列 [昭和56(1981)年]



▲議論する建築学科の学生 [平成3(1991)年]



▲カッター訓練 [平成8(1996)年]



▲実技に取り組む情報工学科の学生 [平成18(2006)年]



大学と同窓会が共に発展。



特別 対談

大学同窓会 会長

殿村 和也

×

金沢工業大学 学長

大澤 敏

全国的に知名度が高まっている金沢工業大学（以後、大学と省略）の躍進ぶりは目を見張るものがあります。母校の発展は卒業生の喜びであり、同窓会としては母校への支援と協力を続けていきます。今回、特別対談として、これからの大学と同窓会のあり方を殿村和也大学同窓会会長と大澤敏大学学長に語っていただきました。

北陸電波学校から 始まった先進性のルーツ

殿村会長 ●今年、1期生が卒業して50年という節目を迎えました。昭和40（1965）年に開学した大学の歩みを、学長という立場からどのように捉えていますか。

大澤学長 ●本学の原点は、昭和32（1957）年に開校した北陸電波学校にあることは間違いありません。その当時、カラーテレビの放送が開始され、電波は公共分野を中心に利用されていました。つまり、北陸電波学校の教育自体が時代を先取りした取り組みだったと言えます。

殿村会長 ●そうですね。そして、優秀な技術者が巣立っていったと聞きます。大学も新しいことにチャ

レンジしてきました。インターネットの整備は私立大学の中では有数の早さだったそうですね。

大澤学長 ●当時まだ限られた人しか利用していなかったインターネットに着目した点には、その先見性に驚きました。

殿村会長 ●学生が主体性を持つものづくりに取り組む「夢考房」、問題の発見から解決までをチームで実践しながら学ぶ「プロジェクトデザイン教育」など、私の在学時代はなかった教育が導入されています。

大澤学長 ●それらの教育によって「自ら考え行動する技術者」が育っています。そして、学園創設者である泉屋利吉氏が建学綱領の中で、「高邁な人間形成」「深遠な技術革新」に加えて「雄大な産学協同」と述べられているように、大学には50年の歴史を経た今も、北陸電波学校に始まり、先見性をもって社会に役立つ大学でありたいという姿勢は脈々と受け継がれています。

殿村会長 ●先進性と言えば昨年、白山麓キャンパスが開設されました。金沢工大学園のグローバル化が急速に進んでいるように感じます。

大澤学長 ●数学、理科、情報などほとんどの科目を英語で授業する取り組みは画期的です。さらに、理工系のボーディングスクール（寮制学校）の設置

卒業生の関心を呼ぶ活動を

は国内初の試みです。地方創生という観点で、白山、金沢から世界を変えようとするグローバル化の試みは、次の先進的な取り組みを見つける土台となっています。

殿村会長●次代を見据えた新しい取り組みは、一人ひとりの飛躍の中から生まれるということですね。

大澤学長●ご存じのように、京藤陸重第2代学長は「教育付加価値日本一の大学」を目標に掲げられました。その精神は引き継がれ、本学の使命は今も学生の力を引き出すことです。その教育を受けて学び舎を後にした卒業生の歩みは、大学の歩みそのものであり、50年の重みとして感じます。

世代・分野・文化を 超えた共創教育を展開

殿村会長●しっかりとした大学の基盤が築かれていますね。ただ、現代社会は移り変わりが早く、グローバルな視点も持つことが非常に大切になっています。時代を先取りしながら、時代に合わせて教育内容を変えていく必要があるのではないのでしょうか。

大澤学長●その通りです。専門基礎として学問の体系を大学で学ぶことは大事です。ただし、それだけでは社会に対応できないと考え、本学が20年以上前から採り入れたのがプロジェクトデザイン教

育でした。会社では一人で仕事をすることはありません。仲間と協力してプロジェクトを進めていきます。現在、教育の中心にプロジェクト型教育を導入し、さらにAIやIoTを活用したプロジェクト型授業を展開していきます。

殿村会長●確かに、大学で学んだことが実社会で通用しなければ、絵に描いた餅と言えます。ところで、大学の授業は国際的に通用するものだと思いますね。

大澤学長●日本の大学として初めて工学教育の事実上世界標準であるCDIOに加盟しました。CDIOとはConceive（考え出す）、Design（設計する）、Implement（実行する）、Operate（操作・運用する）の略です。この考えに基づいて教室内だけではできないI（実行する）とO（操作・運用する）を加えた社会実装型教育は、社会から高く評価されています。このプロジェクト型教育に、企業の技術者・研究者、外国人や自治体、地域住民が関わることで、社会実装を強化しています。このように、世代・分野・文化を超えた「共創教育」、社会との共創を展開しています。インターンシップもこの流れの一つとして重視しています。

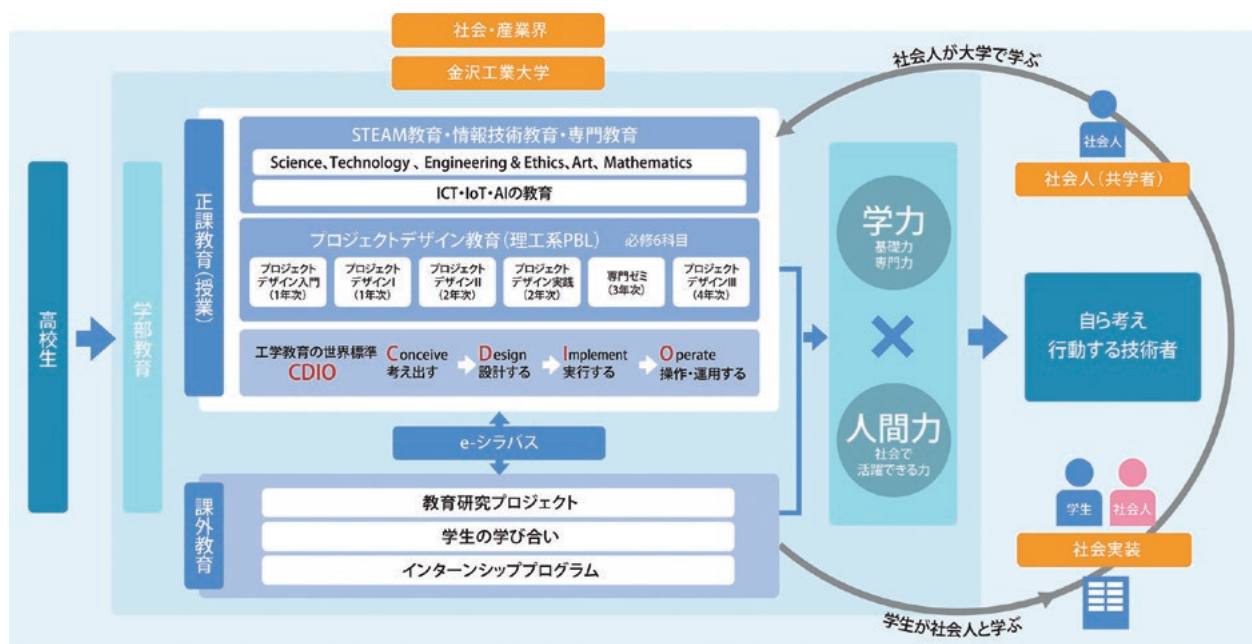
殿村会長●単に会社を見学していくインターンシップではなく、人材育成を目的としたものなら歓迎です。現在、企業は人材の確保に苦勞しており、いろんな会社を見て、どんな仕事かを知ってもらうこ



社会人共学者として参加し、
学生と卒業生が共に学ぶ。

共創教育の フレームワーク

- プロジェクトデザイン教育を正課教育の支柱
- 正課と課外の相乗的な学習
- 学生が社会で学ぶ
- 社会人が大学で学ぶ





同窓会活動を活性化し、卒業生と一体となって大学を支援。

とが第一歩だと思います。

大澤学長 ● 企業と学生が関わり合いを持つことが重要です。学生と卒業生が、プロジェクトでも、授業でも、一緒に過ごす中で、新しいことが生み出されます。それが世代を超えた教育につながっていけばと考えています。

社会とつながることが学生の成長につながる

殿村会長 ● 卒業生が授業を受けることで、社会で得た知識を学生へ伝えようということでしょうか。

大澤学長 ● そうです。「社会人共学者」という制度をご存じでしょうか。平成 28 (2016) 年度から設けたもので、卒業生も授業に参加できます(HP 参照)。科目等履修生として単位も取得できます。社会人共学者が学生と一緒に授業を受ければ、議論が深化するとともに、さまざまな観点が加わることになります。卒業生には、もう一度大学に戻って後輩と新技術を共に学び合うことを期待しています。

殿村会長 ● そういった制度を知らない人がほとんどだと思いますので、もっと利用を呼び掛けたいです。授業に参加することで先生とのつながりも強くなり、最新の大学の情報も得られそうです。

大澤学長 ● 今年からプロジェクトデザイン I という科目を全学部全学科混成で行っています。12 学科の学生がお互いを知り知恵を出し合えるわけです。

殿村会長 ● いろんな分野の学生が参加するわけですね。どのようなことに取り組むのですか。

大澤学長 ● 例えば、防災に関するプロジェクトを学生が進めるとします。金沢の街並みを守りながら都市計画を考えるのは建築、そのために耐火材料が必要であるならば応用化学、避難経路の最適化やシミュレーションは情報工学の学生が力を発揮します。それらを自治体の方や住民が評価するというのがポイントです。

殿村会長 ● なるほど。評価やアドバイスをする自治体や地域住民、企業の技術者、すなわち社会経験者の立場からも学生を成長させるということですね。

大澤学長 ● 大学の授業に社会人が参加してもらい、学生のインターンシップのプログラムを充実してもらい、この 2 つのサイクルが回れば、大学と卒業生の絆は深まると確信しています。

大学は卒業生の“家” 学生の支援の継続を

殿村会長 ● なるほど。そういった点では、卒業生の大学への関心を高めるかが課題と言えそうです。今回、工大祭と併せてホームカミングデーを開催しました。オープンキャンパスや卒論発表会は誰でも

参加できるようですので、そういった機会も活用したいです。

大澤学長 ● 大学は卒業生の“家”です。卒業生はもっと活用してください。若い学生とコンタクトが取れる同窓会は、卒業生にとっても価値があります。金沢駅でプロジェクションマッピングを行っています。技術面をアドバイスしたり、バックアップしたりするなど、卒業生が学生のイベントに関心を持っていただければ幸いです。

殿村会長 ● 石川県だけでなく、全国に卒業生はいます。支部のニーズをくみ取り、協力したくなるような活動を実施していかなければならないと思っています。同窓会の活動を定着させるには、在学生の支援も大事ですね。同窓会の情報を瞬時に届けるアプリやスマートフォンに対応したホームページの見直しも視野に入れていきたいですね。

大澤学長 ● 研究室単位で同窓会を開いてみてはどうでしょうか。自分が所属した時の研究室の人たちとつながっていけば、少しずつ輪が広がっていくような気がします。

殿村会長 ● こぶし会には全国の都道府県に支部があります。これからのゼミや部活動、プロジェクトなどの小さな単位の同窓会を支援していく取り組みが必要だと考えています。

大澤学長 ● 一度、情報の輪から外れたら、つながりが薄れてしまいます。そういった卒業生を呼び戻す仕組みが大切ですね。大学の発展は卒業生の発展なしでは考えられません。

殿村会長 ● それを言えば、卒業生の発展も大学の発展なしでは考えられません。共に発展し、誇りの持てる大学、同窓会になればと願っています。本日はありがとうございました。



社会人共学者も交えて議論する世代を超えた共創教育



文化を超えた共創教育の一環として、授業に英語を徐々に導入

卒業生が一堂に会し、会場は笑顔にあふれ

KITホームカミングデー開催

旧友・恩師と時間を忘れて

KIT ホームカミングデーは平成30(2018)年10月20日、約130人が出席して21号館で開かれ、母校に帰ってきた卒業生が旧友や恩師と再会し、懐かしむ姿がそこかしこで見られました。

初めに、大澤敏学長が現在の大学の教育を説明した上で、「キャンパスの変化を感じてもらい、このイベントが卒業生と在学生の交流の場になれば幸いです」と挨拶しました。

その後、学科ごとのテーブルに分かれ、卒業生たちは恩師や仲間との再会を喜びました。卒業研究やサークルなど当時を思い出して会話も弾み、今後の連絡先を教え合いました。最後に殿村和也大学同窓会会長が閉会の言葉を述べました。



学生に戻った気分に

稲垣 良行さん (機械・昭和44年卒)

何でもできると思っていた学生に戻った気分です。このように立派な大学になり、喜びもひとしおです。これからも発展することを祈っています。



この大学を卒業してよかった

小倉 修平さん (電気・昭和44年卒)

1期生として母校の名に恥じぬよう、社会の発展に尽くしたつもりです。現在の大学と在学生の著しい活躍は誇らしく、金沢工業大学を卒業してよかったと思います。



幅広い分野の人と会える

園部 政和さん (応用バイオ・平成27年卒)

幅広い分野の方々との意見交換できたことは、今後の仕事に役立つと思います。このようなイベントをもっと開催してくれれば、また参加したいです。



学校がますます好きに

堀 晴菜さん (環境化学・平成23年卒)

私が知っている大学は4年間だけです。今回、大学の歴史を紡いできた先輩方と話す機会が得られたことは貴重な時間で、母校がますます好きになったと思います。



大学の礎を築いた1期生を称え 卒業50年祝賀会



金沢工業大学の卒業50年祝賀会は平成30(2018)年10月20日、約70人が出席して21号館で開かれ、激動の時代において大学の名声を高めてきた1期生20人を称えました。

祝賀会では初めに、大澤敏学長が「情報社会が進む中、皆さんの基礎をもとに、さらに発展したいと考えています」と挨拶し、稲垣良行さんと小倉修平さんが各学科の代表として感謝の品を受け取りました。

この後、1期生を代表して浅香憲一さんが「今後も卒業生と大学は連携し、両輪となって発展しましょう」とお礼の言葉を述べました。

在学生を代表して学友会の馬淵洋平

会長が感謝の言葉を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し、閉会しました。

高橋秀治さん

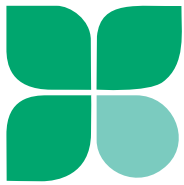
(電気・昭和44年卒)

今日の隆盛は誇り



何十年ぶりに先生や同期の仲間と会うことができ、祝賀会の開催には感謝しています。私たちが入学した頃は、大学は田んぼに囲まれていました。初代学長の青山兵吉先生は「ここが発展の要」と話されたように、この地で金沢工業大学が今日の隆盛を誇ることは、卒業生にとって栄誉と言えます。





金沢工大学園60周年記念特集

同窓会の歩み

第2回

金沢高専から国際高専へ



高専 同窓会

南校地時代

金沢工業高等専門学校は開校当初、旧野々市小学校の仮校舎で開校しました。昭和37(1962)年に新校舎(現在の南校地にある金沢工業大学11号館)が完成し、30年にわたって学生が学びました。



- ① 教員の皆さん [昭和43(1968)年]
- ② 高専祭の様子 [昭和43(1968)年]
- ③ 機械工学科の卒業旅行 [昭和51(1976)年]
- ④ 通信技術を学ぶ
電気工学科の学生 [昭和51(1976)年]
- ⑤ グループで卒業研究に取り組む
電気工学科の学生 [昭和56(1981)年]
- ⑥ 精神力を養った穴水研修 [昭和56(1981)年]
- ⑦ 機械の構造を検討する
機械工学科の学生 [昭和60(1985)年]
- ⑧ 南校地時代の校舎 [平成2(1990)年]

当手を振り返って



恩師の言葉を胸に

浅香 憲一 さん
(電気・昭和42年卒)

1期生として入学した開校当初は、旧野々市小学校が仮の校舎でした。三八豪雪の際、雪と格闘した毎日の通学は、エンジニアを志す最初の試練として忘れられない思い出です。翌年には南校地の新校舎に移り、後輩たちと共に建学綱領の「人間形成」「技術革新」「産学協同」に基づいた校風を築き上げていくために邁進しました。その中で、私たちは高度経済成長期を迎え、新たな日本を担うエンジニアとしての覚悟を持ちました。

授業では、産業界が求める即戦力を育てる実学が徹底されました。専門科目の理論と実験・実技で裏付けされた経験と知識は、学ぶことの楽しさを教えてくれました。また、学問だけでなく社会人としての倫理観や協調性の大切さも身につきました。

「自然は嘘をつかない。嘘をつくのは人間だ。真理を追究しなさい」。青山兵吉校長の言葉です。目の前の事柄に真摯に向き合い「何が正しいのか」を追い求めることは、エンジニアとして最も大切な資質です。青山校長の言葉が今でも私の支えになっています。



新しい人生がスタート

平野 哲正 さん
(電気・昭和45年卒)

子供の頃から時計などの電化製品を分解するのが好きでした。当時、電気のことを学べる学校と言えば金沢高専でしたので進学を決めたのです。ただ、実家は農家で、子供ながらにいずれは家業を継ぐものと思っていました。ところが、父親がアイスクリームの事業に乗り出したため、その後の私の人生は大きく変わっていきます。

工業系の勉強は、面白くて自分に向いていると感じました。最新の電気工学は私の興味をかき立て、授業が待ち遠しかったことを覚えています。高専時代は、2年生から2年間、バレーボール部に所属しました。精神的にも、体力的にも、とても充実した時間を過ごすことができ、その時の仲間と久しぶりに再会したいと思っています。

工業系の勉強は、面白くて自分に向いていると感じました。最新の電気工学は私の興味をかき立て、授業が待ち遠しかったことを覚えています。高専時代は、2年生から2年間、バレーボール部に所属しました。精神的にも、体力的にも、とても充実した時間を過ごすことができ、その時の仲間と久しぶりに再会したいと思っています。

実は、私は小学校高学年から不登校で、しばらく学校に通うことができませんでした。金沢高専には知り合いがほとんどいないことで、新しい人生を始めることができたという意味では学校に感謝しています。

新校舎時代

平成3(1991)年に金沢市久安で新校舎での学校生活スタート。北陸随一の工業系教育機関として、多くのエンジニアを輩出してきた金沢高専は、平成30(2018)年4月には校名を国際高等専門学校とし、グローバル人材の育成に取り組んでいます。



10



9



11



12



13



14



15



16

- ⑨ 新校舎をバックに記念撮影 [平成4(1992)年]
- ⑩ 卒業記念パーティー [平成5(1993)年]
- ⑪ 高専ロボコンの様子 [平成8(1996)年]
- ⑫ 旅先で写真に収まる女子学生 [平成13(2001)年]
- ⑬ データを検討するグローバル情報学科の学生 [平成28(2016)年]
- ⑭ シンガポール修学旅行で記念撮影するグローバル情報学科の学生 [平成28(2016)年]
- ⑮ 池の平研修の様子 [平成28(2016)年]
- ⑯ 白山麓キャンパスが完成 [平成30(2018)年]



人生が変わった2年間

高柳 啓一 さん
(機械・昭和50年卒)

金沢高専に入った頃は、世の中は好景気に沸いていて、自分で考えたり、ものをつくったりする仕事に就きたいと考え、この学校に入学しました。ものづくりには、何かを見つける楽しさ

があり、いつの間にかその魅力に惹かれたのかもしれない。

卒業論文で練り合わせる工作機械を設計した経験は、卒業後に就職した会社で生かされ、新商品開発設計の責任者になるなど、小さな頃からの夢を実現する原動力となりました。

ところで、4年生と5年生の2年間はクラス替えがありません。毎年、全学年クラス対抗の体育大会があったのですが、5年生の時に私たちのクラスが優勝し、温泉旅行に行ったのはいい思い出です。この2年間は印象深く、記憶に残っています。

私たちは入学した当初から、生徒ではなく学生なのだと意識し、勉強に取り組みました。特に4、5年生の専門知識がなければ、今の私はなかったかと思うと、人生が変わった2年間だったと思います。



大学と一緒に環境に刺激

菊田 聖一 さん
(機械・昭和60年卒)

父親が機械関係の会社に勤めていた影響で、ものづくりに興味を持っていました。また、8歳年上のおじさんが金沢高専の卒業生でしたので、どういった学校なのかを聞き、20歳まで5

年間、一緒に仲間とともに勉強ができる環境に魅力を感じて進学しました。

私はどちらかといえば、やんちゃな学生だったと思います。先生たちは少しずつ私に手を差し伸べてくださり、正しい道に導いてくれました。そして、友達は今でも財産です。また、木野哲夫先生には大変お世話になりました。結婚式の際には、仲人役も引き受けていただき、卒業後も応援して下さったことに感謝の念に堪えません。

この頃の校舎は、金沢工業大学との境界がありませんでした。子供と大人が同じ場所で学んでいたのです。そういった環境で過ごす中で、早い段階から自分の価値観が形成されたと思います。実は、私の子供も金沢高専の卒業生です。自分が学んだ学校を子供が選んでくれることほどうれしいことはありません。

ほ じ か い
保 二 会

打ち立て、茹で立てに満足

新そばの会

新そばの会が平成30(2018)年11月9日、白山市木滑の旧白山里山商店で開かれ、会員ら9人が色・味・香りが抜群の新そばに舌鼓を打ちました。

新そばのおいしさを知ってもらおうと、5年ほど前から谷端拓雄さん



新そばの旨さは格別です

(昭和41年卒)の協力を得て実施しています。谷端さんは55歳で脱サラし、長年の夢だったそばの店を平成14(2002)年にこの地で開店しました。現在は、知人からの要望がある時だけ店を開いています。

参加者はまず、囲炉裏でじっくり焼き上げたアユを味わい、おぼろ状のゆし豆腐やしし肉のおいしさに笑顔を見せました。この後、待望の新そばが目の前に出され、「ズルッ、ズルッ」とこぎみのよい音を立てながら、そばののど越しと香りを楽しみ、「このそばを食べたら他のそばは食べられない」という声も聞かれ



料理の数々を堪能した皆さん

ました。

最後に、杵と臼を使って、昔ながらの餅つきも行いました。つきたての餅をきな粉とあんこで味わった参加者は、大満足の様子でした。

西山旅館で研修会

研修会を平成30(2018)年11月20日から2日間開催し、会員ら9人が参加しました。これからの保二会のあり方を話し合いながら、親睦を深めました。

き せ ん か い
機 扇 会

機械工学科・機械システム工学科・物質応用工学科・先端材料工学科・物質システム工学科・ロボティクス学科・航空システム工学科

同窓会の発展で母校と在大学生を支援

第4回交流会

工大祭に併せた第4回交流会が平成30(2018)年10月20日に行われ、会員同士の親睦を深めました。

今年は、金沢工業大学の1期生

を対象に卒業50周年祝賀会とKITホームcomingデーが開催されたのに併せて、合同開催という形で交流会を実施しました。



懇親会で親睦を深めた皆さん

交流会では、中田政之会長が同窓会の発展と母校への貢献とともに、同窓生の皆さんが充実した人生を歩んで社会で活躍してほしいとした上で、「交流会に参加することで会員のつながりや支援の輪が広がり、母



挨拶する中田政之会長

校と在大学生をバックアップしていければと思います」と挨拶しました。

交流会では、普段顔を合わせることもない異なる世代の会員が歓談し、和気あいあいとした時が過ぎました。また、参加者は交流会が始まる前には工大祭も楽しんだほか、KITホームcomingデーの企画でキャンパスツアーも行い、進化し続ける学び舎に感心しました。

この後の懇親会では「また来年も参加したい」と話す会員もおり、大いに盛り上がりました。



懇親会に多くの会員が出席しました

総会と記念講演会、懇親会が平成30(2018)年9月22日、金沢工業大学21号館で会員や先生ら約35名が出席して開かれました。

総会では、平成29(2017)年度事業・会計報告、平成30(2018)年度事業計画・予算案報告を審議し、新幹事を紹介しました。記念講演会では、山口尚先生が「学びの時空を振り返る」と題して講演しました。

山口先生に卒業生が感謝

総会・記念講演会・懇親会を開催

通信工学に興味を持った経緯や長年にわたる学生への学習支援の内容を分かりやすく解説。「京藤睦重先生からいただいた『能力の限界に挑め』と書かれた野球ボールの言葉

ちから記念品が贈呈され、山口先生に卒業生全員が感謝の気持ちを伝え、思い出話などに花を咲かせました。また、泉屋吉郎理事長が出席し、これからの学園運営について熱心に語られました。

通り、学問に取り組んできた」と話すなど、会員一同、興味津々に聞き入っていました。

引き続き21号館2階のカフェテリア・イルソーレで山口尚先生の謝恩会を兼ねた懇親会を開催しました。山口先生には、研究室で学んだ卒業生た



親交を深めた皆さん

マイナスをプラスの思考に

第34回異業種交流会

第34回異業種交流会は平成30(2018)年8月19日、金沢市のANAホリデイ・イン金沢スカイで16人が参加して開かれ、長谷川渡さん(大学院・経営工学・平成21年卒)が「競技かるたに学ぶメンタル力強化術」と題して講演しました。

長谷川さんはまず、札の並べ方や取り方、勝ち負けの決め方など、

競技かるたの基本的なルールについて解説しました。参加者は「払い手」「突き手」「渡り手」「戻り手」「囲い手」といった技の数々があると知ると、その面白さにどんどん引き込まれていき、次々と質問が相次ぎました。

この後、競技かるたの実践に基づいた脳のメンタル強化法を分かりやすく説明しました。長谷川さんは、人間は死ぬ間際でも性格を変えられるとした上で「マイナスホルモンが分泌される3秒前までにプラスのイメージを考え



「感覚を伴った良いイメージは忘れない」と話す長谷川さん

ることで、思考をプラスに変えられる」としました。



交流会に参加した皆さん

第35回異業種交流会

- 日時 平成31(2019)年1月27日(日)
 受付10:00 開始10:30
- 場所 ANAホリデイ・イン金沢スカイ
- 会費 2,000円
 (昼食代込み、講演聴講のみは無料)
- 講師 金沢工業大学産学連携室
 鈴木康允氏
- 演題 「白山麓の将来構想について」
- 申し込み 前日までに経工会ホームページ参加フォームから申し込みください。

ながつき会 土木工学科・環境土木工学科

砂防堰堤の重要性を学ぶ

現場研修会

恒例となった「現場研修会」が平成30(2018)年8月4日、会員ら25人が参加して行われ、県民の尊い命と財産を守るために構築された砂防堰堤の現場を見学しました。

一行はまず、白山砂防科学館を訪れ、白山砂防の歴史が100年以上前から始まり、現在もその取り



参加した皆さん

組みは続いていると知って、認識を新たにしました。その後、白山市白峰地区市ノ瀬砂防堰堤(昭和29(1954)年に完成)に向かい、国内初の工法を採用したアンカー工法による改築工事を見学し、3本のアンカーを打ち込むことで堰堤を補強する様子に感心していました。

さらに、既存する赤岩砂防堰堤群の改築において、一気に土砂が流れ出さないように、堰堤に切れ目を入れるスリット化



砂防堰堤の大きさに圧倒されました

を施す必要性も理解しました。車窓からは、昭和9(1934)年に起こった手取川大洪水が産んだ奇岩「百万貫(3,750トン)の岩」も目にし、大自然がもたらす巨大なエネルギーも実感しました。

第14回ながつき会ゴルフコンペ開催

「ながつき会ゴルフコンペ」を平成30(2018)年7月21日に白山カントリー倶楽部松風コースで開催し、参加者16名が競い合いました。

積み木会 建築学科・居住環境学科・建築都市デザイン学科・建築デザイン学科



研修会に参加した皆さん

白山麓キャンパスを見学

総会と建築研修会を開催

建築研修会は平成30(2018)年9月22日、会員や学生、一般の方75人が参加して開かれ、白山麓キャンパス(白山市瀬戸)の国際高専の校舎や金沢工業大学のKITイノベーションハブとして使われる最新の建造物を見て回りました。

初めに、国際高専事務局長の山岸徹さん(昭和57年卒)、五井建築研究所の三崎智也さん(大学院・建築学・平成20年卒)、施工を担当した

清水建設北陸支店の北敬介さん(平成15年卒)が技術的なポイントを解説しました。

この後、一行は学生と教員がくつろげる空間の「リビングcommons」、開放的な図書スペース「ライブラリ



難易度の高い工法が使われた建築に感心しました

ー&ワークcommons」のほか、実際に学生が共同生活を送る学生寮にも足を運びました。最後はカフェテリアで交流会を開き、世代を超えて意見を交換するなど、有意義な研修会となりました。

新会長に古橋孝実氏(平成8年卒)

平成30(2018)年度総会を開催し、新会長に古橋孝実氏を選出しました。



古橋新会長は若手幹事の増強、ネットワークづくりを活動目標に掲げ、「建築研修の充実し、外部との交流を促進することにより、卒業生や在校生の支援に貢献したい」と述べました。

扇翔カフェで意見を交換

総会・懇親会を開催

総会と懇親会を平成 30 (2018) 年 10 月 20 日に金沢工業大学 23 号館 214 室で開催し、会員や在学生、先生ら 36 名が出席して親睦を深めました。

3 年ぶりに開かれた総会では、加原智彦会長が挨拶し、平成 27 (2015) 年度から平成 29 (2017) 年度までの 3 年間の決算・監査報告と、3 年間の事業実績、平成 30

(2018) 年度の事業計画とその進捗についての説明が行われました。また、役員改選の報告があり、大橋一樹さん(平成 15 年卒)を新事務局長として承認しました。

この後、「扇翔カフェ」と題して懇親会を実施しました。初めに情報工学科主任の中沢実先生とメディア情報学科の鎌田洋先生から情報工学科とメディア情報学科の現状について説明がありました。

続いて、根木規彰さん(情報工学科 3 年)、赤倉凱斗さん(情報工学科 3 年)、中村朝子さん(メディア情報学科 3 年)、小林裕太さん(メ



総会で事業内容を報告しました

ディア情報学科 4 年)の 4 名が、授業の活動内容や研究内容の発表をポスターセッション形式で行いました。学生たちは、その場で簡単なデモも実施し、参加者と活発に意見交換しました。また、相沢英之さん(平成 20 年卒)が「金沢工業大学における AI 活用の取組紹介」として現状を解説しました。

最後に、加原会長が「来年も学園祭に合わせて同窓会を行う予定です。皆さまのご参加をお待ちしております」と挨拶し、閉会しました。



参加した皆さん

こぶし会の国際交流事業支援

留学で国際感覚を伸ばす

学生が帰国報告会

こぶし会では、金沢工大と国際高専が実施する国際交流プログラムを支援しており、インドネシアで平成 30 (2018) 年 9 月 9 日から 12 日間実施された「ラーニングエクスプレス」の活動報告会が平成 30 (2018) 年 10 月 30 日に行われました。

活動報告会では、「レンガ製造」「竹串製造」「竹マット織物」の 3 つのグループが、それぞれの課題で取り組んだ内容を説明しました。

レンガ製造については、「レンガを焼くために積み上げる作業に時間がかかりすぎる」ことが問題点であったため、滑車を使ったフレームを提案しました。また、竹串製造は、刃を覆うカバーを取り付けて 2 枚刃にすることで、1 回の動作で尖らせる工夫をしました。さらに、竹マット織物では、竹をスライスする道具とカットする道具を考案しました。

このように国際交流プログラムは、学生が文化を超えた人々とのつながりの大切さを知るきっかけとなっているようです。



学生たちの活動報告会の様子

現場で課題に取り組む学生



文化を超えた共創教育の実現へ一歩

KIT 国際交流会館が完成

金沢工大学園が建設を進めてきた KIT 国際交流会館が平成 30 (2018) 年 8 月 1 日、完成し、学園関係者がグローバルイノベーターを育成する拠点の誕生を祝いました。

式には、泉屋吉郎理事長をはじめ、黒田壽二学園長、泉屋利郎顧問、大澤敏大学学長、ルイス・バークスデル高専校長ら約 30 人が出席しました。泉屋理事長は「この施設は国際社会に踏み出す基礎を築かれた黒田学園長と夫人の功績を記念する会館として位置づけたい」と挨拶し、国際活動の強い決意を示しました。

会館は、鉄骨 3 階建て、延べ床面積は約 2570 平方メートル、総工費は約 7 億円です。1 階には畳敷きの会議ブースや談話ブースがあります。2、3

階は留学生の住居エリアで、個室 5 部屋と共有スペースで構成されたユニットが 10 ユニットあり、最大 50 人の留学生が滞在可能です。

各ユニットには共有スペースとしてミニキッチンが備わったリビングとト

イレ、シャワールームがあり、プライベートを確保しながらコミュニケーションがとれます。また、それぞれの個室とユニットリビングにはテラスがあり、高橋川を眺められます。



グローバル社会で活躍する上で欠かせない国際交流プログラムの充実を図ります



工学教育のレベルアップ目指す

日本初の CDIO 国際会議開催

第 14 回 CDIO 国際会議は、平成 30 (2018) 年 6 月 29 日から 3 日間、金沢工業大学で開催され、32 カ国の高等教育機関の関係者約 350 人が基調講演やポスター発表などを通じ、質の高い工学教育のあり方を考えました。

CDIO とは、Conceive (考え出す) Design (設計する) Implement (実行する) Operate (操作・運用する) のことで、「工学の基礎となるサイエンス」と「テクノロジーの基礎となる実践・スキル」のバランスを重視した、質の高い教育を目指すものです。

現在、39 カ国、150 以上の大学などが加盟し、工学教育の事実上の世界標準となっています。「CDIO イニシアチブ」に金沢工業大学、国際高専が加盟しており、この国際会議の日本での開催は初めてです。

大澤敏学長が離れた場所からコミュニケーションが取れるツール「ANA AVATAR」で開会の挨拶を行い、会場を沸かせましたほか、STEM 教育の第一人者として知られるカーティン大学理工学部学部長の TERESA BALSER 教授が基調講演しました。



大澤敏学長は、「ANA AVATAR」で挨拶しました

また、チャレンジラボでは「SDGs education with ANA AVATAR Vision」が開催され、スペシャルトークや AVATAR の体験会を開催し、金沢工業大学の学生プロジェクト「SDGs Global Youth Innovators」が考案した SDGs カードゲームのワークショップも行われ、注目を集めました。

マルチコプター部門で初優勝

全日本学生飛行ロボコン

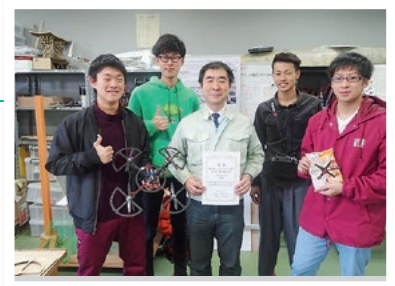
国際高専機械工学科5年生4人のチーム「希望」が、平成30(2018)年9月28日から3日間、東京都の大田区総合体育館で行われた第14回全日本学生室内飛行ロボットコンテストのマルチコプター部門に出場し、初優勝を果たしました。

「希望」のメンバーは、伊藤恒平教授の研究室に所属する菊田有昭さん、小

西歩さん、馳陽大さん、又村峰裕さんです。今回は炭素繊維で機体の軽量化と強度のアップを図りました。

コンテストには「希望」を含む全国11チームが参加。小型無人機「ドローン」を操り、「高所物質運搬」「大型物資運搬」「8の字飛行」の3つのミッションで技術を競いました。

馳さんは「カーボンを使った機体の



優勝して笑顔を見せる伊藤教授と「希望」のメンバー
有効性を実証できたので、競技全体のレベルが上がるでしょう。後輩たちには自動制御のミッションに取り組んでほしい」と話しました。

プログラミングの教材開発

ロボットを動かす感覚をシールで

金沢工業大学チャレンジラボのカルチャー&サイエンス・コミュニケーションプロジェクトは、株式会社ウイル・コーポレーションと株式会社PFUとタッグを組み、ICT環境に適した独自の新しい小学生向けプログラミング教材を開発しました。

カルチャー&サイエンス・コミュニケーションプロジェクトは、国際高専の竹俣

一也教授と南出章幸教授が中心となり、金沢工業大学と国際高専の学生が協力して、地域の方々と科学を通じた交流を行っています。

今年から小学校では、プログラミングの授業が必須となりますが、全ての教員にプログラミングの専門知識がありません。また、パソコンなどの機材の



シールは繰り返し使うことができます

費用もかかります。そこで、「前に進む」「右に進む」などの「プログラミングシール」で、ロボットを動かす感覚を身につけてもらいます。

個人の脳波を98%で特定

生体認証の仕組みを開発

金沢工業大学大学院情報工学専攻1年の山下正人さんと中沢実教授、西川幸延教授の研究グループは、画像の刺激を使って脳波を解析し、個人を特定する生体認証の仕組みを開発しました。98%の精度で特定でき、指紋や虹彩認証に代わる安全な個人認証システムとして期待されます。

研究グループは、画像などを見た際、

個人によって脳波の出る位置に違いがあることに気づき、個人認証に使えないか研究を始めました。学生31人で実験を行い、頭部の14カ所に電極を取り付け、モニターに5枚のトランプを表示して脳波を測定しました。得られた脳波を解析したところ、98%の確率で個人を特定できました。

研究成果は10月にニュージーランド



ロボット制御や生体認証に脳波が活用できます

で開催される国際会議「ICMU2018」で発表。これからの山下さんの研究の取り組みに期待がかかります。

“JACUE SELECTION 2018” に選定

『本質から考え行動する科学技術者倫理』

科学技術応用倫理研究所（西村秀雄所長）が編集した『本質から考え行動する科学技術者倫理』（白桃書房）が大学教育学会“JACUE SELECTION 2018”に選定されました。同書は、平成29（2017）年度から

学部3年次の必修科目「科学技術者倫理」の教科書として使用されているほか、平成30（2018）年度後学期から大学院工学研究科専攻共通科目「プロフェッショナルとしての倫理と行動設計」（必修）でも活用されます。

審査講評では「教科書として必要な内容が豊富に盛り込まれており、表現と構成が巧みで分かりやすく、一般の読者も利用しやすい」と高く評価されました。学会のホームページでも「注目の一冊」として紹介されました。

第22回こぶし会ゴルフ大会

桜井渉さん（大学・電気・昭和48年卒）が栄冠 団体戦は高専電気チームが勝利

第22回こぶし会ゴルフ大会は平成30（2018）年9月8日、石川県加賀市の片山津ゴルフ倶楽部で開かれ、会員と学園関係者ら65名が参加し、ゴルフを通じて親睦を深めました。

ダブルペリア方式で行われたラウンドは、時折、小雨がちらつく天候となりました。体が濡れる中でも参加者はナイスショットを連発し、思わぬ珍プ

レーには笑顔がこぼれる場面もあるなど、終始和やかなラウンドとなりました。

グロスで80台が続出した個人の部では、桜井渉さんが優勝し、保二会、高専（各学科）、大学（各学科）で競った団体の部では、高専電気チームが制しました。プレゼンターは松田真一こぶし会会長が務めました。



個人優勝した桜井渉さん（右）
前回優勝した時、「会報こぶしに載っていたな」といふ人々に言われたので、今回も反応が楽しみです。ハンドボール部50周年の記念の年に優勝できたので本当にうれしいです。



団体の部で優勝した高専電気チーム
写真左から 安田 清さん（昭和47年卒）
石畑 敏明さん（昭和50年卒）
早川 義造さん（昭和43年卒）

団体

優勝 高専電気チーム
第2位 大学電気チーム
第3位 大学土木チーム

個人 ネットの部

優勝 桜井 渉さん（大学・電気・昭和48年卒）
第2位 早川 義造さん（高専・電気・昭和43年卒）
第3位 安田 清さん（高専・電気・昭和47年卒）

ベストグロス 品川 義信さん（大学・土木・昭和48年卒）

こぶし会PRESENTS

Vol.14

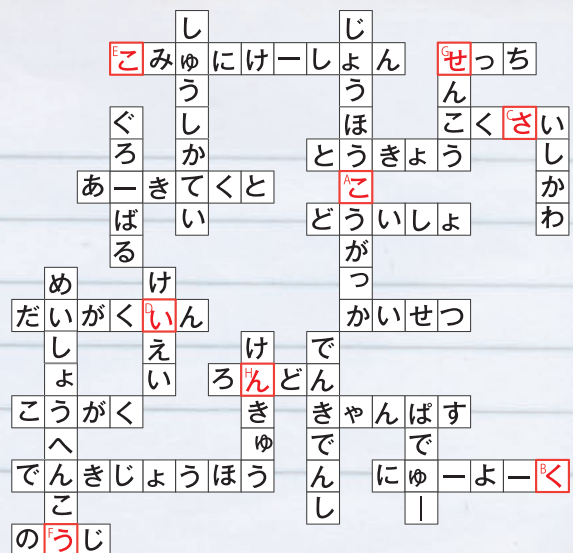
クイズの学園

62号の
答え

KIT検定（上級編）の答え

パズルは下の通りになります。
パズル内のA～Hの文字を拾って並べると

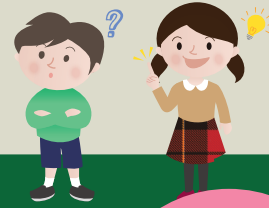
A **こ** B **く** C **さい** D **い** E **こ** F **う** G **せ** H **ん** となります。



クイズの学園 VOL. 15



ちょっとした気分転換ができる
クイズを用意しました。
ご家族で楽しんでください。



KIT検定(上級編)

以下の金沢工業大学に関する記述のうち、まず○、△、□の部分をはらがなで埋めてください(○、△、□は各1文字)。それぞれの単語を表のマス目に残さずに当てはめ、A~Iに入る文字を順に並べてできる言葉を教えてください。

ヒント

スケルトンと呼ばれるパズルです。タテは上から下に、ヨコは左から右に単語を記入します。また、タテとヨコが重なる部分は同じ文字が入ります。

■ 学園のあゆみ⑪ 平成22年~平成23年

H22/4/1 ○○○○○&テクノロジー○○○
○△△△△△△を○○○○○
△△△△△に開設

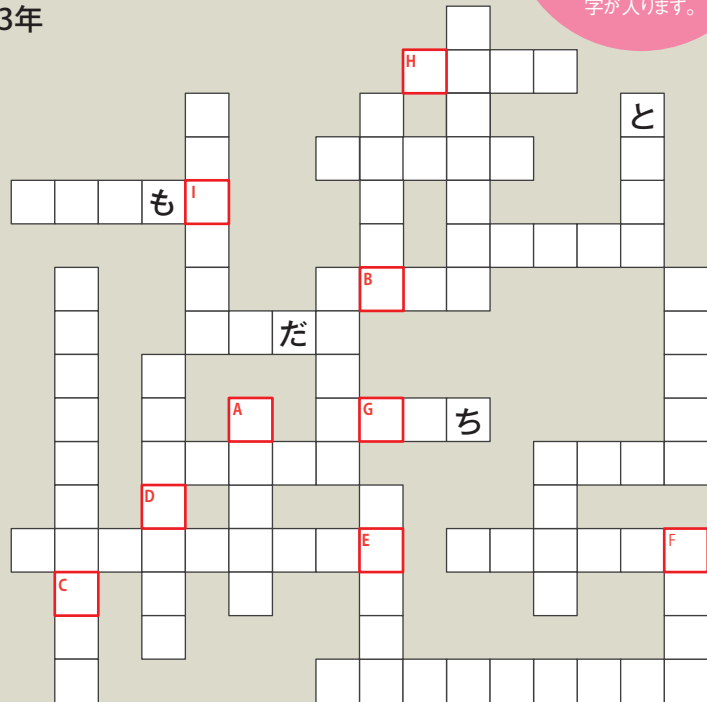
H22/6/1 ○○○○○○○△△△△技術研
究所開設。情報○○○○○○研究
所と○○○○○情報システム研究
所を○○○○○し○○○○○○○
○○研究所を開設

H22/8/23 ○○○○△△△△△大学との○
○○○○○○○○○および協
力に関する○○○○○に○○○○
○(タイ)

H23/2/1 電気・光・○○○○○△△△△
△△△△□□□開設

H23/4/1 ○○○○○○保育園○○○○

H23/5/31 KIT/NYU○○○○○校○○○○○
脳磁研究所○○○○○



【注意】○、△、□がつながって1つの単語(もしくは単語の一部)になっている箇所がありますが、これは○、△、□をそれぞれ1つの単語として分割し、それを表の各マス目に当てはめてください。

A	B	C	D	E	F	G	H	I
---	---	---	---	---	---	---	---	---

※学園のあゆみは金沢工業大学ホームページの教育情報の公表の項目で、「教育情報公表資料」内の「付記 沿革」資料に掲載されています。

応募のきまり

■ 応募方法

同封しているインフォメーションカードにクイズの答えを記入してお送りください。正解者の中から抽選で10名の方に3,000円分の図書カードをお送りします。なお、当選者の発表は賞品の発送を持って代えさせていただきます。

■ 締切

平成31(2019)年4月5日(金)当日必着

■ 発表

正解は平成31(2019)年4月12日(金)にこぶし会ホームページ上で発表します。

インフォメーションカードの記入例





盛り上がりは例年以上、商品は売り切れ続出

こぶし祭

高専祭・工大祭併催
2日間の開催は初めて



毎年恒例となったこぶし会のイベント「こぶし祭」が10月20、21日の2日間開催されました。高専祭と工大祭が同日開催となったため、これまで4日間だったこぶし祭も2日間に短縮となりました。しかし、全国から集まった特産品が並び「こぶし屋」、豪華賞品を用意する「大抽選会」など、例年以上に祭りは盛り上がりました。



全国の珍しい商品が買えると好評

こぶし屋

全国から集められた珍しい品に人だかり



全国のこぶし会支部会員が厳選した全国の名産品がずらりと並んだ「こぶし屋」。群馬のラスク、茨城のわら入り納豆、鹿児島島の豚味噌などが並び、野菜などの生鮮食品は高専会場で販売されました。開店直後から人の波が途切れることがなく、「完売御礼」の札が次々と貼られていき、昔懐かしいポン菓子や焼き芋も人気を集めました。



完売していく商品が次々と



こぶし庵 コーヒーでひと休み 安らぎの空間を提供

こぶし庵では、県内各地の名水で入れたコーヒーを無料でサービスし、安らぎの空間を提供しました。旧友と思い出話に花を咲かせたり、家族そろって談笑したりする姿が見られ、ほっとする味わいのコーヒーを手に会話が弾んでいました。



久しぶりの再会につい長話



コーヒーはちょっと休むのにぴったり

こぶし祭抽選会 大賞当選者

豪華賞品がそろった大抽選会で見事に当選された皆さん、本当におめでとうございます！

10/20(土)



50インチ 4Kテレビ

原野 貴洗さん
(大学・ロボティクス学科4年)

10/21(日)



和倉温泉「加賀屋」ご家族4名様
または「ユニバーサルスタジオ
ジャパン」ペア2名様ご招待

畑中 勇樹さん
(大学・電気電子工学科1年)

オリジナル応募クイズ当選者発表

全国の会員から応募いただいたクイズの主な当選者は次の皆さんです。その他の当選者の方々はホームページ上で発表しています。

こ賞 コードレス
クリーナー

村田 昌治さん
(大学・土木・昭和59年卒)

ぶ賞 Nintendo
Switch

中野 祥子さん
(大学・情報・平成7年卒)

し賞 スマート
スピーカー

米林 貴也さん
(大学院・電気電子工学・平成17年卒)



手作り工作コーナー

ものづくりの楽しさに触れる

手作り工作コーナーでは、親子がスノードームや紙飛行機づくりにチャレンジしました。キラキラと雪が舞うように見えるスノードームは特に女の子に人気で、



親子が仲よく協力して製作しました

自分だけの作品に笑顔を見せていました。

国際高専ホームカミングデー

母校で学生時代を思い出す

国際高専では、卒業生に母校を訪れてもらう「ホームカミングデー」を開催しました。当日は卒業生たちが次々と校舎を訪れ、久しぶりに顔を合わせた仲間とともに、卒業アルバムを見ながら学生時代を思い出していました。



三輪栄嗣さん(左・電気・昭和42年卒)が母校を訪れたのはお子さんが卒業して以来でした

100Km 歩行応援隊

めった汁で学生を激励!

大学同窓会の「100Km 歩行応援隊」は10月21日早朝、工大祭恒例の100Km歩行の休憩地点「アクロス高松」で、参加した学生を栄養ドリンクとめった汁で激励しました。昨年の荒天とは打って変わって晴天となった今年は、大量に作っためった汁を学生たちがきれいに完食しました。



受け取る学生に笑顔も



100 km歩行応援隊の皆さん

ステージ企画

落語や音楽で祭りを盛り上げる

こぶし祭に華を添えたのが、さまざまなステージ企画です。林家木久蔵師匠が古典落語『宮戸川』で会場を笑いの渦に。また、子供たち約60人がチャリディングを披露したほか、野々市明倫高校吹奏楽部が『宝島』など4曲の音色で観衆を魅了しました。



子供たちが演技



巧みな話芸で魅了しました



ごあいさつ

こぶし祭実行委員長

瀬川明夫さん

(大学・機械・平成2年卒)

今年が高専祭と工大祭が同時開催となったため、こぶし祭も2会場に分かれて開催しました。お客様に恵まれたおかげで、例年以上に足を運んでいただき、誠にありがとうございました。また、この場を借りまして、ご協力いただいた実行委員、全国の各支部の方々に御礼申し上げます。来年も今年以上のこぶし祭になることを期待しています。



道東支部 9月29日

会員11人、石川憲一名誉学長らが出席。広域である支部の連携強化を確かめました。

札幌支部 6月2日

懇親会では1人1分間スピーチを行い、参加者の生の声が聞ける機会となっています。

青森支部 7月20日

27人が参加。懇親会では学園の近況に耳を傾け、和やかな雰囲気でお睦を深めました。

岩手支部 7月28日

幅広い学科から出席があり、懇親会では自己紹介で互いを知ることで結束力を高めました。

宮城支部 7月27日

新理事長就任や国際高専などの説明があり、新規参加者を増やすことを確認しました。

秋田支部 7月14日

県外で勤務している会員が多く、効果的な活動・企画を考えていく意見が出されました。

山形支部 11月10日

「総会」ではなく、会員に関心を持たれる名称に変えてはどうかという提案がありました。

福島支部 7月7日

支部の結束力が強く、会員の発言の端々から学園に対する愛着心が感じられました。

茨城支部 7月7日

新規会員の参加がないのが課題。案内ハガキの負担軽減が「助かる」という声もありました。

栃木支部 6月23日

虎ノ門キャンパスを修了した3人が新たに参加するなど、大いに盛り上がりました。

群馬支部 6月23日

ホームページなどでチェックするなど大学に関心が高く、学生の活躍を喜んでいました。

関東こぶし会 7月7日

東京・神奈川
千葉・埼玉

学園関係者など47人が出席しました。若い年代の参加が目立ち、活動の継続を誓いました。

新潟支部 6月23日

年齢層は幅広く、若い世代も見られます。国際高専を見学したという熱心な会員もいました。

富山支部 10月20日

若い年齢層の会員をいかに増やしていくかという課題に対して知恵を絞りました。

高岡支部 9月2日

西田康博富山支部長、浮田隆之福井支部長が出席し、情報交換しながら交流を深めました。

福井支部 7月14日

新規会員や30歳以下の会員4人が参加し、フレッシュなメンバーの総会、懇親会でした。

山梨支部 6月22日

数年ぶりに顔を出した会員を困んで笑顔に。ただ、出席する会員の固定化が課題です。

長野支部 7月21日

卒業したばかりの会員が参加。複数の教員が出席した方が活性化につながりそうです。

岐阜支部(岐阜) 7月21日

新規会員1人を含めた20人が参加。恩師との再会を喜ぶ会員もおり、盛り上がりました。

岐阜支部(高山) 7月7日

今年は天候が悪く、参加者は限定されましたが、総会、懇親会ともに盛り上がりました。

静岡支部(静岡) 6月9日

参加者同士が互いの近況を語り合いながら交流を深めました。

静岡支部(浜松) 6月9日

和やかな雰囲気でお懇親会が進みました。今年卒業した方も参加し、今後に期待したいです。

愛知支部(名古屋) 8月25日

フレッシュな会員が2人参加。ただ、支部総会などの出席数が減少傾向なので対応したい。

愛知支部(豊橋) 9月8日

今年は活動が難しかったため、来年は若い会員を集めてイベントを開催していきたい。

三重支部 7月21日

三重県出身の会員は約1,300人だが出席が少ないため、声かけを徹底していきたい。

滋賀支部 7月7日

今年卒業の会員2人を含む16人が参加。気軽さをPRして参加者の増加につなげました。

京都支部(京都) 6月30日

出席者の多くが支部総会を楽しみにしており、幅広い年齢層の参加が見られました。

京都支部(舞鶴) 7月28日

工学アカデミア計画への協力などを説明。懇親会では時間を忘れて話の花を咲かせました。

京都支部(福知山) 8月4日

今年は参加人数が少なかったものの、来年は知人に声をかけて参加者を募っていきます。

大阪・兵庫支部 11月10日

大阪と兵庫の連携を強め、両支部合同の活動を増やす必要があるとの意見がありました。

奈良支部 7月14日

こぶし祭での同窓会開催支援を活用して、奈良支部も金沢での活動を検討したい。

和歌山支部 7月14日

新たな卒業生を含めた12人が参加しました。懇親会では学生時代の話で盛り上がりました。

鳥取支部 7月21日

支部長を継承する際、旧支部長がしばらく同行する必要があるため補助してもらいたい。

島根支部 7月28日

平成に卒業した会員が7割を超えるなど年齢層に幅があり、各世代が情報交換しました。

岡山支部 7月21日

大学周辺の店舗などの話で盛り上がり、卒業後の移り変わりを見学したいという声も。

広島支部 7月21日

若い会員を増やすことが課題であり、企業で働く会員を勧誘していくことで一致しました。

山口支部 7月27日

久しぶりに会う会員が楽しく過ごしました。中小企業へのUターン就職も期待しました。

徳島支部 7月6日

今年度はバーベキュー大会と遍路道ウォークを支部独自で開催し、盛況となりました。

香川支部 6月22日

大学の現状について理解を深めました。また、出席者が自己紹介し、近況を話しました。

愛媛支部 5月26日

とても活動的で、会員同士の結束力も高いです。世代交代についても円滑に進みそうです。

高知支部 7月21日

会員のほとんどが県外に就職しています。ゴルフでの懇親も継続していきたい。

佐賀支部 6月9日

会員からUターン就職を希望する方がいた際には、パイプ役となるとの話がありました。

長崎支部 6月9日

拯友会との連携を密にして、会員の参加を増やしていけないかと考えています。

熊本支部 6月8日

今回、新規で参加した会員がいました。拯友会と同時に開催できればと思います。

大分支部 6月8日

泉屋吉郎理事長が就任したなど学園の近況を知り、和気あいあいと懇親会は進みました。

宮崎支部 6月9日

地元大手企業に勤める会員が今年初めて参加するなど、有意義な時間を過ごしました。

鹿児島支部 6月8日

大学での教育の取り組みに耳を傾けました。Uターンしたい学生への協力は惜しみません。

※福岡支部は天候不順のため開催を取り止めました。

支部は北から南の順に掲載しています。

青森支部 7月20日



岩手支部 7月28日



関東こぶし会 7月7日



茨城支部 7月7日



新潟支部 6月23日



富山支部 10月20日



山梨支部 6月22日



岐阜支部 7月21日



三重支部 7月21日



岡山支部 7月21日



徳島支部 7月6日



東北・北海道地区支部長会議

出会う機会を増やす努力を

平成30(2018)年度東北・北海道地区支部長会議が9月29日、北海道釧路市のホテルパコ釧路で開かれ、道東、札幌、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島の支部代表者ら23人が出席しました。会議では、札幌支部が「メールアドレスは保存しており、将来の連絡網に利用したい」、道東支部は「名簿に勤務先が入っていないため、出会いの機会を逃している」などと報告しました。若い世代の会員の参加が徐々に増えているものの、その伸びが緩やかであることから、声かけを続けていくことを確認しました。



東海地区支部長会議

ブロックに分けてOB会実施

平成30(2018)年度東海地区支部長会議が9月15日に愛知県名古屋市のホテルサンルートプラザ名古屋で開かれ、岐阜、静岡、愛知、三重の支部代表者ら12人が出席し、支部ごとに活動状況を報告しました。静岡支部は「全日本フォーミュラ大会に出場している学生を独自に応援した」、愛知支部は「他の支部がどのような支部総会を行っているのかを知りたい」と話しました。各支部は独自のイベントを実施して活動を少しでも知ってもらおう努力が必要だという認識を共有しました。

近畿地区支部長会議

メールでの案内を促進

平成30(2018)年度近畿地区支部長会議が6月23日、大阪府吹田市のサニーストンホテル江坂で開かれ、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の支部長ら14人が出席しました。会議では各支部が活動を報告し、滋賀支部は「総会連絡ハガキの事務局での運営は、負担軽減になるので続けてほしい」、京都支部は「支部長を希望する40代の会員がいれば紹介してほしい」といった意見が聞かれました。また、出欠ハガキにメールアドレスを記載している会員にはメールで案内しているという声もありました。



お知らせ

沖縄支部総会

平成31(2019)年
1月26日(土) 19:00~
ホテルサンパレス球陽館
沖縄県那覇市久茂地2-5-1

こぶし会会員の 更なるご支援とご協力を



石川 憲一

特別奨学事業寄付金募集委員会 委員長
金沢工業大学名誉学長

新たなる歴史の幕開け

ご高承のように本学園は1957年に創立以来、62年の歴史を着実に刻み、卒業生の総数は7万余名を数え、国内外において活躍されています。

取り分け、今年度は大学の第1期生150名が、卒業後50年が経過した記念すべき年でありましたので、ホームカミングデーの一環として学園から招待状を差し上げたところ、20名の方々が半世紀の星霜を超えて、将に母なる大学に戻ってこられました。記念式典では、其々の卒業生の歩まれた足跡が称えられましたが、このような催しには、第2期生以降の方々も挙って母校に参集して戴きたく思います。

ブロック別支部長会議の重要性

こぶし会は全国に48支部を有し、毎年、全国支部代表者会議をはじめ各支部長会議をブロック別に開催してきています。私は昨年度発足した「特別奨学事業寄付金募集委員長」に就任致しましたので、ブロック別支部長会議にはこぶし会の役員の方々と共に学園を代表して参加して参りました。支部長会議では、其々の地区の課題などについて熱心な意見交換が行われ、寄付募集事業を推進するためにも大変参考になりました。こぶし会は母校である本学園を篤い愛校心を以て応援する重要なミッションを有しているとの認識をお互いに深めることが出来ました。このような傾向を更に拡大して行くためには支部長各位の強いリーダーシップが必要となりますので、今後とも宜しくお力添え下さいますようお願い申し上げます。

北陸三県の優良企業に対する表敬訪問

昨年度からは上述の特別奨学事業寄付金募集委員長として、資金局の各位と共に北陸三県に活動拠点を有し、従来、本学園の卒業生を多数ご採用戴いてきている優良企業約200社を表敬訪問して参りました。

訪問先の企業においては大学の教育・研究の現状と展望、新たに発足した国際高専の状況に加えて、特別奨学事業等をご説明した後に承るメッセージとしては、押し並べて本学園の卒業生の目覚ましい活躍振りについてであります。

このことは本学園の人材育成の方針と実践が産業界の希求する方向性と整合していることの証左であり、卒業生の活躍こそが本学園の掲げる理念・目的を立証し得るものと考えられます。

更なる飛躍のために

資源小国である我が国が変革の著しい国際環境下において、これからも世界の先進諸国と比肩し伍していくためには、一層高度な理工系人材を育成する以外に途はなく、本学園は建学綱領をバックボーンに置きながらその一翼を担うべき重要な使命を有しています。このような観点からも、こぶし会会員の皆様方に於かれましては、母校に学ぶ後輩諸君に対して特別奨学事業、夢考房プロジェクト事業、古本活用事業などを通じて、更なるご支援・ご協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。

工学アカデミア計画

—古本活用事業—

STEP.1
梱包

STEP.2
電話

STEP.3
寄付

古本で手軽に募金ができます!

皆さまから書籍やCD・DVDなどをご提供いただき、買い取り金額を本学園の教育・研究に必要な図書購入費に充てます。

書籍・DVD・CDなどを、申込書(ホームページの「電話で申込む」)と一緒にダンボール箱へ入れてください。

提携会社バリューブックス(TEL:0120-826-292)に問い合わせ、「工学アカデミア計画—古本活用事業—の申込み」と伝えてください。

物品を提携会社が買い取り、その売却代金が「学校法人金沢工業大学」に寄付されます。

※買い取りできない書籍などがありますのでご注意ください。

Webからの申し込みはこちらへ。

工学アカデミア計画「古本活用事業」 検索

こぶし会は金沢工大学園を応援しています。

<p><正会員></p> <p>村瀬 正毅 (大学・情報・S53)</p> <p>大平 正範 (大学・電子・H10)</p> <p>山形 正尚 (大学・経営・H元)</p> <p>枇杷 達治 (大学・土木・S52)</p> <p>能田 八郎 (保二会・S35)</p> <p>寺崎 吉之 (大学・電気・H10)</p> <p>大西 順一 (大学・電子・S57)</p> <p>平成 20 年 10 月 山崎 研 (大学・土木・S48)</p> <p>平成 24 年 北 哲夫 (大学・電気・S47)</p> <p>平成 26 年 9 月 伊藤 由嗣 (保二会・S36)</p> <p>平成 28 年 2 月 藤本 吉則 (大学・土木・S52)</p> <p>4 月 太田 哲 (大学・経営・S48)</p> <p>5 月 水本 努 (保二会・S36)</p> <p>6 月 橋本 健司 (大学・土木・S54)</p> <p>村橋 猛 (大学・建築・S50)</p> <p>10 月 中谷 鉄夫 (大学・経営・S46)</p> <p>12 月 吉田 久志 (大学・電子・H3)</p> <p>平成 29 年 藤井 数馬 (大学・情報・S50)</p>	<p>3 月 金井 敬和 (大学・建築・S52)</p> <p>6 月 川上 昌宏 (大学・電気・S63)</p> <p>7 月 田島 桂三 (保二会・S39)</p> <p>小坂 忠巳 (大学・電子・S57)</p> <p>11 月 佐戸口 勇一 (大学・情報・H3)</p> <p>垣内 俊明 (大学・土木・S46)</p> <p>12 月 中野 智成 (大学・機械・H8)</p> <p>新熊 淳徳 (大学・機械・H8)</p> <p>安岡 宏 (大学・情報・S55)</p> <p>平成 30 年 1 月 工野 証史 (保二会・S36)</p> <p>神田 光雄 (大学・機械・S51)</p> <p>2 月 田中 勇 (保二会・S33)</p> <p>3 月 檜木 善隆 (大学・機械・S53)</p> <p>下川 優 (保二会・S41)</p> <p>田中 啓文 (大学・土木・S46)</p> <p>4 月 熊谷 秀成 (大学・機械・S48)</p> <p>吉谷 祐一 (大学・建築・S55)</p> <p>5 月 西村 五宏 (大学・電気・S44)</p>	<p>鉄 勝浩 (大学・経営・S58)</p> <p>6 月 黒川 幹也 (保二会・S32)</p> <p>7 月 小玉 泰久 (大学・電気・S47)</p> <p>白石 勝敏 (大学・経営・S55)</p> <p>新田 寛 (大学・機械・S56)</p> <p>川原 健司 (大学・電気・H9)</p> <p>8 月 中嶋 功志 (大学・土木・H8)</p> <p>10 月 梅田 勝男 (保二会・S41)</p> <p>加世多 善洋 (大学・電気・S44)</p> <p>南 英信 (大学・経営・S45)</p>
--	--	--

佐久間 亘
金沢工業高等専門学校名誉校長 逝去



佐久間亘金沢高専名誉校長が平成 30 (2018) 年 11 月 10 日、病気のため逝去されました。95 歳。佐久間先生は、北陸電波高等学校非常勤講師、金沢工業大学教授を経て、昭和 61 (1986) 年に金沢高専第 4 代校長に就任されました。情熱的な先生の姿は教職員の模範でした。また、シンガポール・ポリテクニクとの交流や少人数英語教育の開始など国際化の先鞭をつけました。佐久間先生の旅立ちを惜しむとともに、ご冥福を心からお祈り申し上げます。

村上 秀男
金沢工業大学名誉教授 逝去



村上秀男名誉教授が平成 30 (2018) 年 9 月 28 日、病気のため逝去されました。73 歳。村上先生は、昭和 43 年 (1968) 年に本学工学部電子工学科を卒業し、三菱電機 (株) でレーダーエンジニアとして活躍されました。アメリカ留学後、昭和 52 (1977) 年に本学助教授に着任し、昭和 63 (1988) 年に教授に就任されました。退職してからはタイの大学学生の教育に当たられていた村上先生の功徳を偲び、衷心より哀悼の意を捧げます。

平成 30 年度秋の叙勲で次の皆さんが受章されました。

旭日単光章

玉田善明氏
玉田工業 (株) 社長
(大学・経営・昭和 46 年卒)

旭日双光章

前多喜良氏
前白山市議
(大学・土木・昭和 46 年卒)

瑞宝双光章

石森良洋氏
(株) 石森木工社長
(大学・経営・昭和 46 年卒)

■ 会報こぶし 63号から叙勲などの慶事を誌面でご紹介いたしますので、こぶし会事務局まで情報提供をお願いいたします。

INFORMATION

『会報こぶし』へ
皆さまの声を

会員同士はもちろん、皆さんと学園をつなぐ唯一の情報誌である『会報こぶし』では、会員の皆さまからのご意見、ご感想、ご要望をお待ちしております。

■ 送り先

Eメール (kobushi@kanazawa-it.ac.jp) もしくは同封のインフォメーションカードをご利用ください。
※個人情報に関連する内容については掲載できませんのでご了承ください。

編集後記

◆誌面でもご紹介したように、金沢工業大学の機械工学科と電気工学科の学生が卒業してから 50 年という月日が経ちました。誰も通ったことのない道なき道を行き、学習環境も十分でない中、前に進んでいった先輩たちのたくましさには頭が下がる思いです。学園の発展は、在学生と卒業生をはじめた皆さんの望みと言えます。先進的な取り組みに挑戦し続けていき、これからの日本の教育をリードする大学に成長することを願っています。

◆ところで、こぶし会は全国に 48 支部があります。一つひとつの支部は小さくとも、それらの力を結集することで、大きな力が生み出せます。今回の「支部 NOW」では、支部の活動を少しでも紹介するよう誌面を工夫しました。今後も支部の活発な交流について、きめ細かく伝えたいと考えています。／記 T.N

■表紙の説明

表紙に掲載された方の氏名は以下の通りです。(向かって左から)
■ 一段目/宇野康樹、旭俊彦、稲垣良行、浅香憲一、黒田壽二、池田健 ■ 二段目/松田孝一、二輪正雄、北村彰、荻田幸男、高橋秀治、小倉修平、上野務 ■ 三段目/新田光信、坂野信夫、三輪栄嗣、松村嘉之、福田謙之、島謙司 ■ 四段目/早川義造 (高専同窓会会長)、竹馬茂孝 (保二会会長)、殿村和也 (大学同窓会会長)、泉屋吉郎 (理事長)、大澤敏 (大学学長)、松田真一 (こぶし会会長)、馬淵洋平 (学友会会長) (敬称略)

第24回 **全国一斉ボウリング大会**
BOWLING



全国30支部33会場で334人が熱投

全国一斉ボウリング大会が平成30(2018)年11月3日から11日にかけて全国30支部33会場から会員209人、家族125人が参加し、思い思いに投球を繰り広げました。会員の部では北川優さんが380点、家族の部では西崎さおりさんが430点でそれぞれ優勝し、ハイレベルな戦いとなりました。

成績 北川優さんが栄冠!

会員の部

- 👑 **優勝 380点** 金沢会場 **北川優さん** (大学・情報・平成8年卒)
- 👑 **2位 378点** 東京会場 **高見登さん** (大学院・情報工学・平成10年卒)
- 👑 **3位 376点** 金沢会場 **酒本明広さん** (大学・情報・平成22年卒)
- 4位 372点** 金沢会場 **池田豊志さん** (高専・機械・昭和47年卒)
- 5位 359点** 道東会場 **三澤敏也さん** (大学・建築・平成元年卒)

家族の部

- 👑 **優勝 430点** 富山会場 **西崎さおりさん**
- 👑 **2位 371点** 金沢会場 **酒本慎二さん**
- 👑 **3位 368点** 金沢会場 **岩木良一さん**

※スコアは2ゲームのトータルです。



国際高等専門学校
2019年度入学生出願受付中!

現在、2019年度の出願を受け付けています。入学試験について詳しく知りたい方は、入試センター (TEL:076-248-9840) までお問い合わせください。



	出願受付期間	試験日	試験場
一般入試A	1月7日(月)～1月16日(水)	1月26日(土)	金沢・東京・大阪
一般入試B	1月28日(月)～2月6日(水)	2月16日(土)	
自己推薦入試			

こぶし会を日本一の同窓会組織に! **同窓会維持会費納入のご案内**

こぶし会では、平成7(1995)年度より「同窓会維持会費」制度を導入し、**満40歳以上の会員に年額1,000円を納入していただいております。**72,608人の会員と各支部への活動支援、年2回の『会報こぶし』の発行など、同窓会活動の発展を図るために、ご理解とご協力をお願いします。対象となっている未納入の方には、払込取扱票を同封しています。

■会費の払込方法 郵便払込(3年分一括払い3,000円)
お近くの郵便局から同封の払込取扱票を利用して払い込んでください。住所等の訂正がございましたらインフォメーションカードでご返送ください。

対象者

- 保二会全会員
- 高専同窓会 平成31(2019)年3月末日で40歳以上の会員
- 大学同窓会 平成31(2019)年3月末日で40歳以上の会員

※会費の納入は80歳までとさせていただきます。
*平成27(2015)年度に3年分の同窓会維持会費の払い込みをされた方は、平成30(2018)年3月に期限が切れております。払込取扱票を同封させていただいた方はその該当者となりますので、払い込みくださいますようお願いいたします。

『会報こぶし』は、懐かしい学園の香りをあなたにお届けできる唯一の情報誌です。

〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7番1号 金沢工業大学内
TEL.076-294-6375(直) FAX.076-294-0886
Eメール.kobushi@kanazawa-it.ac.jp URL.http://www.kobushi.jp



QRコードで
ホームページを
チェック!

こぶし会
事務局